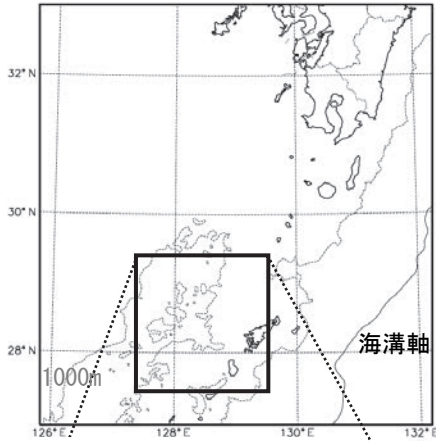
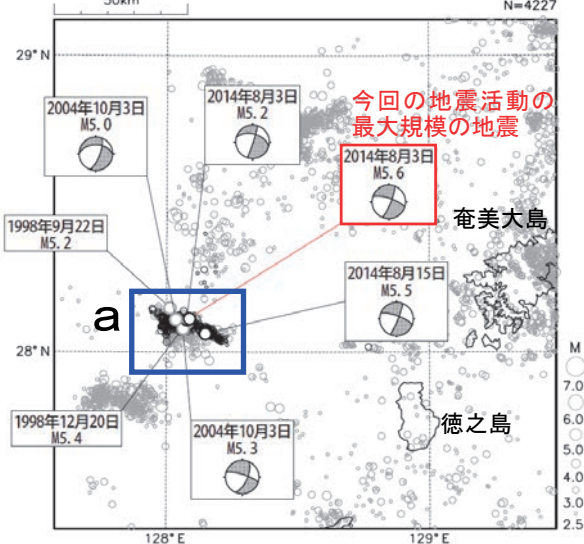


## 奄美大島北西沖の地震活動 （奄美大島の西約 100km の地震活動）



震央分布図  
（1994 年 10 月 1 日～2014 年 8 月 31 日  
深さ 0～40km、 $M \geq 2.5$ ）  
2014 年 7 月 26 日以降の地震を濃く表示  
図中の発震機構は CMT 解



震央分布図  
（1923 年 1 月 1 日～2014 年 8 月 31 日、  
深さ 0～80km、 $M \geq 5.5$ ）



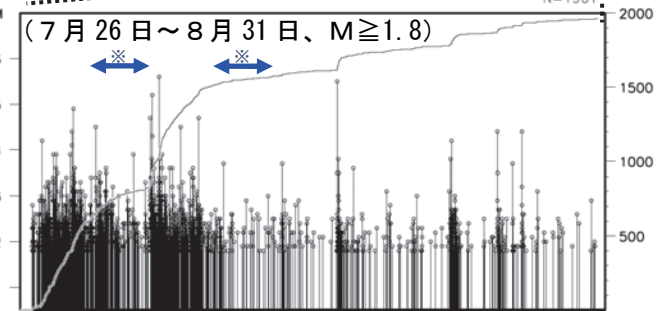
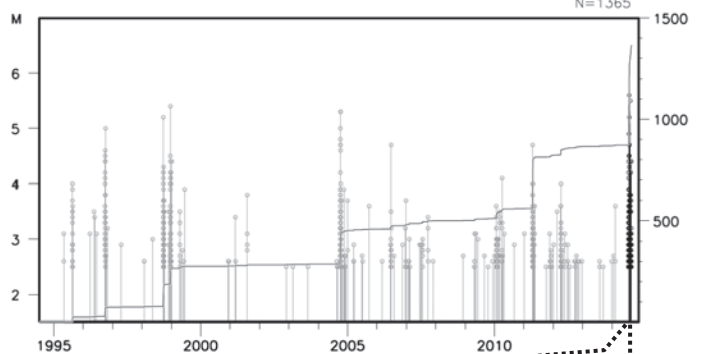
2014年7月26日07時頃から、奄美大島北西沖（奄美大島の西約100km）で地震活動が活発となり、8月末までに震度1以上を観測した地震が10回（最大震度別の回数は震度3：2回、震度2：3回、震度1：5回）発生した。この地震活動は、沖縄トラフ沿いの活動であり、陸のプレート内で発生した。

このうち最大規模の地震は、8月3日13時06分に発生したM5.6の地震（最大震度3）である。また、8月15日02時09分には、M5.5の地震（最大震度3）が発生した。これらの地震の発震機構（CMT解）は、北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震活動は、次第に低下している。

1994年10月以降の活動を見ると、今回の地震活動域付近（領域 a）では、数年に一度M5クラスを最大規模とするまとまった活動がある。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震活動域周辺（領域 b）では、M6.0以上の地震が3回発生している。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



※7月30日から8月2日、及び、8月6日から9日は、台風の影響で小さい地震を検知する能力が低下している。

領域 b 内の M-T 図

